

学校支援会報

■平成27年11月12日発行 第7号 ■編集 一関市学校支援室根地域本部事務局（一関市室根市民センター内TEL.0191-64-2847）

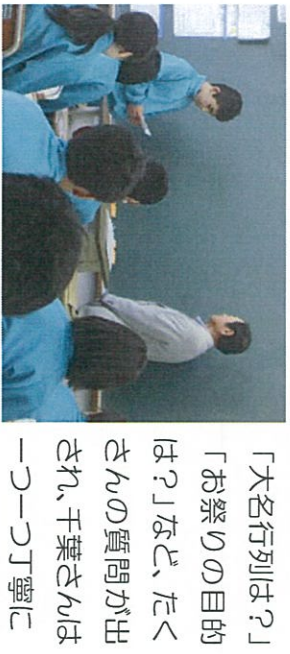
室根大祭の歴史 子どもたちへ

10月23日から25日にかけて開催された「室根神社特別大祭」を前に、室根中学校と室根西小学校で室根大祭についての学習が行われました。

両校とも講師ボランティアを室根町史談会会長の千葉栄一さんに依頼。室根中学校では10月7日に1年生32人が学習しました。

国重要無形民俗文化財に指定されている「室根神社特別大祭（マツリノ行事）」は、奈良時代初期の西暦718年に紀州熊野から分霊を勧請し、室根神社に祭った故事を再現。旧暦うるう年の翌年に開催され、およそ3年に一度開催されています。2018年の大祭は1,300年祭にあたり、守り継がれてきた歴史や内容について分かりやすく説明していただきました。

生徒たちからは「なぜ室根山に祭られるようになったのか?」「なぜ、山岳霊場はなくなったのか?」



「大行列は?」「お祭りの目的は?」など、たくさん質問が出され、千葉さんは一つ一つ丁寧に

答えてくださいました。

最後に、生徒を代表して畠山大志さんが「継続の大切さを知った。僕たちが後生に伝えていきたい」と感想とおれの言葉を述べました。



大祭の歴史を分かりやすく説明する千葉さん



たくさん質問が寄せられました

室根西小学校5年生18人は10月9日、総合的な学習の環境として学習しました。

「室根大祭はなぜ始まったのか?」「役割は何種類あるのか?」「雨でもやるのか?」など、事前にまとめた20以上の質問に千葉さんも驚き。一つずつ、分かりやすく説明していました。

「昔から家の役割が決まっているが、30年後には役割を継ぐ人が集まらないなどの心配がある。難しく複雑なお祭りなので、今日の話をお忘れなようにして欲しい」と話していました。

子どもたちからは「室根大祭の歴史が古いことがわかりました」「私たちが大人になってからもお祭りを盛り上げていきたいなど感想が述べられました。両校とも、歴史ある地域の伝統行事に対して興味や理解が深まり、とても有意義な講演となりました。千葉さんお忙しい中、ありがとうございました。」

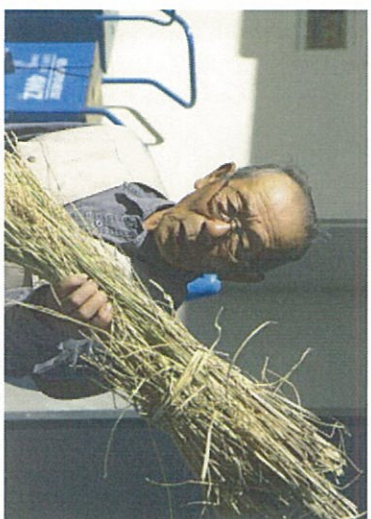


真剣に聞く生徒たち。「僕たちが後世に伝えていきたい」とおれの言葉も述べました

早く食べたい! 美味しいお米

室根東小学校の5年生20人が、10月26日にハツツ稲の脱穀体験をしました。

JAいわて平泉の畠山正人さんとボランティアの菅原政輔さんが、脱穀に使用する『千歯こぎ』『どうみ』などの道具を持参。道具の紹介や使い方を説明した後、一人ずつ体験しました。始めは小分けにした稲束で少量ずつ、その後一人一束ずつ体験。少量のときは簡単だと話していた子ども達もいきましたが、一束ずつ脱穀するときは、引く手にも力が入りひと苦労。貴重な体験をすることができました。



米づくりにお話しをする菅原さん

さんの手間をかけて育てる必要があることなど、稲作に関するお話もたくさんしていただきました。

出来たモミは菅原さんが

精米して持ってきてくださるそうです。

最後に児童を代表して西城遼太郎さんが「束の量が多いと引き抜くときの感触が大きい」と感想を話し、おれの言葉を述べました。



一束ずつ脱穀体験。ちゃんと出来たかな?



穫れたてのモミに興味津々

3~4校時に行われ、終わりの頃には給食の時間も近づき、お米を目の前にした子ども達から「おなかすいた〜」「早く食べたい〜」との声が聞こえました。自分たちで育てたお米を食べる日が、今から楽しみです。

衣装替えで輝く演技



着物で演技。かわいい1年生

室根東小学校の学習発表会が10月17日に行われまして、1年生と6年生が劇中に衣装に替える

ため、限られた時間の中、舞台袖での早着替えのお手伝いをボランティアの方々にお願ひしました。

6年生の劇「タピオカ・ツツドラ2015」は、不思議な呪文を唱え、縄文時代、弥生時代、江戸時代...と、

時空を越えた歴史の旅へ出発するストーリー。場面ごとに変化する時代にあった衣装へ。見事に衣装替えができました。

1年生の劇「ハバけすきん」は、いたすらギツネと庄屋さんの化かし合い?! 後半は全員が和装で登場するため、劇中に衣装替えをしました。

たくさんの方々に手伝いいただき、すばらしい学習発表会になりました。ご協力ありがとうございました。



大勢で衣装替えをしていただきました